

はじめに

コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys) は、情報処理学会システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会が主催するシンポジウムです。今年は法政大学の市ヶ谷キャンパスにおいて開催されます。1987年に第1回が開催され、システムソフトウェア分野の最新の研究成果が集まる場として今回で記念すべき第30回を数えます。本シンポジウムは、OSを中心に分散処理、並列処理、オブジェクト指向を経て、仮想化、クラウドコンピューティング、ディペンダブルコンピューティング、セキュリティとその基盤ソフトウェアなどをスコープとしております。OSやシステムソフトウェアの最先端の話題を取り上げ、時代の流行を先取りした研究テーマを議論してきました。

ComSys 2018では昨年と同様、投稿論文の査読は行わず、コメントフィードバック制度を設けました。本シンポジウムのコメントフィードバックは、投稿者自身がどのようなコメントが欲しいかをリクエスト可能な形式としています。いただいたリクエストを基に、OSコミュニティの研究者を中心としたレビューが投稿いただいた論文に対して建設的なコメントを著者に返すという仕組みになっています。著名な国際会議や海外論文誌へ投稿、研究の位置づけの明快化など、推進している研究をステップアップさせる場として本シンポジウムを利用していただくことが狙いです。

ComSys 2018には11本の論文が投稿されました。内容は仮想マシンやコンテナなどの仮想化技術、ストレージ、オペレーティングシステムのコア技術といった話題になっており、当日の発表では深い議論を行えればと考えております。また、例年好評のポスター発表も実施いたします。招待講演には、株式会社サイバーエージェントの青山真也氏と富士通株式会社の亀澤寛之氏をお招きし、コンテナ技術に関する2件のご講演をいただきます。また、システム分野の主要会議で採択となった論文を発表する招待凱旋発表や出張報告など、イベントが目白押しとなっています。さらに、ComSys 2018の前日には BitVisor Summit 7が開催されます。システムソフトウェアの研究者、日本発の仮想マシンモニタであるBitVisorの開発者、BitVisorを題材として研究を展開している研究者との議論を通じて、お互いのコミュニティを活性化できることを期待しております。

OSやシステムソフトウェア分野の発展は、新たなアプリケーションを産み出し、新しいハードウェアプラットフォームを活かしていくという意味で、大きな社会的使命を担っております。本シンポジウムから次の時代のOSやシステムソフトウェアを生み出せればと考えております。また、システムソフトウェアの研究開発、産学連携、人材発掘と育成、人的交流などを今後も推進していければと考えております。本研究会およびシンポジウムがさらに発展するよう、今後とも皆様のご支援・ご協力を賜れば幸いです。

2018年11月

第30回コンピュータシステム・シンポジウム 実行委員長
光来 健一 (九州工業大学)

第30回コンピュータシステム・シンポジウム 副実行委員長
広瀬 崇宏 (産業技術総合研究所)